

■児童・生徒の学力の状況

- 「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果では、国語科の本校の平均正答率は都の平均正答率と同等で、数学科の本校の平均正答率は都の平均正答率を2ポイント下回った。
- 国語科では「読むこと」、数学科では「図形」の平均正答率が他の観点と比べて低い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 「読み解く力」の育成に向け、M T（語彙力向上に関わる活動）と共書きの習慣化に課題がある。
- 全授業で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進するとともに、自己調整型の学びを全教科で推進することが求められる。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 「板橋区授業スタンダード」に基づく授業を実践し、基礎学力（体力）の定着と向上を図る。
- 「誰一人生徒を取り残さないプロジェクト」を本格化させ、家庭でも教室でもない第3の居場所としての「S B Sルーム」の運用、I C T機器の利活用、個別最適化、多様性を尊重する視点で推進する。
- 家庭学習課題（宿題）は共通課題と個別課題に分け、個別最適化を図る。
- 「読み解く力」に、「正しく書く力」と「分かりやすく話す力」を合わせ、その育成を全教科・領域を通じて図る。
- 「一人一資格運動（英検・漢検・数検）」を推進し、全員に卒業までの資格取得を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び
板橋区授業スタンダードSの取組

○全教科で「めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・ふりかえり」の流れに沿った授業を展開し、単元のねらいや生徒の実態に応じた「自己」選択・決定・調整の学習を取り入れる。

視点2

読み解く力の育成

○週2回、「R S タイム」（新聞コラムの書き写し学習）を設定する。

○全教科で、「ミーニングタイム（M T）」「語彙力向上にかかる活動」、共書きを授業の中で習慣化する。

視点3

総合的な学習の時間との連携

○カリキュラムマネジメントを意識し、単純な調べ学習や行事の事前・事後学習のみに時間を費やすらず、探究学習を積極的に取り入れる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進

○「小中一貫・板三エリア」における小中連携研修会は、年間4回設定する。そのうち第3回の小中連携研修は、中学校教員が小学6年生の児童に入学前体験授業を行い、学びの連続性を意識した小中一貫教育を推進する。

カリキュラム・マネジメントの推進

○生徒・保護者・教職員が「東京で1番の学校」と胸を張って言える学校（満足度・自己肯定感の極めて高い学校）を目指すことを念頭に、「総合的な学習の時間」を、学校行事、他教科等の目的・内容・方法を意識した単元配列表を作成し、探究学習を進める。

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、「使用頻度の高さ」、「生徒のI C T機器の有用感の高さ」が明らかとなった。また、「分からぬことへの学び方の工夫」など、個別最適な学びについての肯定感が高い。引き続き、「個別最適な学び」の実現に向けた研究を推進し、実践例の共有と指導格差が出ないように「チーム学校」の組織づくりを進める。